

おとめ ごころ
乙女のバカ心

ゆめ おとめ お
夢みる乙女ほど手に負えないものはない。

かのじよ じゅぎょうちゅう どうげこうちゅう でんしゃ
彼女らはいつもボーっとしている。授業中でも登下校中でも電車の

なか
中でも、すぐにボーっとしてしまう。

ゆめ しょうじょ じつ たいへん う
わたしが夢みる少女だったころも実に大変であった。生まれつきボーっ
としていたわたしが、日常生活に夢まで取り入れて生きた時期であるから、
そのボーっとし具合ときたら、水族館の水槽の中をグルグル泳ぐまぐろの
ようであった。

ゆめ しょうじょ しょき じゅうご ろくさい げいのうじん
夢みる少女の初期のころ(十五、六歳ごろ)、わたしはさまざまな芸能人
ねつ あ はらたつり わたなべとおる しょうねん わかて
に熱を上げていた。原辰徳、渡辺徹をはじめ、CMタレントの少年や若手
わら ぶんや つぎつぎ す
お笑いスターまで、さまざまな分野にわたり次々と好きになっていった。

わたなべとおる か
渡辺徹にはラブレターまで書いた。

ゆめ しょうじょ こわ す げいのうじん じぶん
夢みる少女の怖いところは、好きになった芸能人が、もしかしたら自分
ふ む おも こ
に振り向いてくれるかもしれない、と思い込んでいるところである。

わたなべとおる てがみ へんじ あ
わたしも渡辺徹がもしも手紙の返事をくれて、もしも会うことになって、
もしもつきあうことになったらどうしよう.....と本気で心配しながらも期待

していた。

ファンレターを出してから三ヶ月後、わたしの期待とは裏腹に、商魂たくましいファンクラブの案内状が届いた。そのころから渡辺徹は太り始め、わたしの情熱も冷めていた。

芸能人に夢中になるのをやめたわたしは、理想の男を勝手に作り上げてはポーっとする、夢みる少女第二期に突入した。

ポーっとしている頭の中では、いつでもわたしの好みのタイプの少年が、かなり美化された私とつきあわされていた。

彼は背が高く頭がよく、芸能人にもいないほどすてきな顔立ちをしており、優しく誠実でそのうえお金持ちであった。現実にはいるはずもなく、万一いたとしても絶対わたしなんかとつきあうはずはない。そんな男が空想の中ではわたしの思うままなのだ。

わたしの空想パターンはだいたい決まっていた。美化されたわたしは家柄まですり替え、良家の娘という設定になっている。わたしはおしゃれをしてたそがれどきの窓辺で彼を待っていると、間もなく彼はランボルギーニだかフェラーリだか知らないが、とにかく幻のスーパーカーに乗ってわたしを迎えに来るのだ。

このころからわたしは、^{ゆめ こい につきちよう}“夢みる恋の日記帳”^{につき}をつけ始めていた。日記と
いうよりは詩に近いが、それは読む者を^{し ちか}恥ずかしさ^{よ もの は}で^{しんかん}震撼させるパワーがあ
る。

^{きょう}
今日ね

^{ひさ}
久しぶりに

^{だいす} ^{ゆめ み}
大好きなあなたの夢を見たの

^{ゆめ}
ずーっと夢でもいいから

あなたといっしょにいたかったわたし

ばかっばかっ、こんなもん書いてたわたしのばか。こんな詩に、^{し へた}下手なカ
ラーイラストまでつけてたのだから死^しにたくなる。

ところがこんなものを、二年半も^{か つづ}書き続けていたのだ。

^{とうじ} 当時のわたしは、ちょっとどこかへ^で出かけるときも“もしかしたら恋のチャ
ンスがあるかも”などと^{むね ふく}胸を膨らませて^{ある}イソイソと歩いていたものである。

^{ゆめ} ^{しょうじょだいさんき} ^{となりまち} ^{しんがくこう} ^{かよ} ^{だんしせいと} ^{ねつれつ} ^{かたおも}
夢みる少女第三期は、隣町の進学校に通う男子生徒への熱烈な片思
いである。とにかく^{つうがくとちゅう}通学途中でも^{かれ}彼に^{であ}出会うとわたしの全身の力^{ぜんしん}は^{ちから}抜け、
^おかばんを^おバタリと^め落としたり、クラッと^{まんが}目まいがしたりするのだ。よく、漫画
などで^{おお}大げさに^{じゅんじょうしょうじょ}純情少女が^{あか}赤くなって^おかばんを^お落としたりするが、まさ

かそんなことがほんとうに自分の身の上^{じぶん み うえ お}に起こるとは思わ^{おも}なかった。

片^{かたおも}思^{きゆうそく}いは急^{かくじつ}速^{かねつ}に確^{かれ}実^{あたま}に加^{おとこ}熱^{おも}していった。彼^{かれ}は頭^{あたま}もよく男^{おとこ}らしくハン

サムで背^せも高^{たか}い。こんなすてきな人^{ひと}は、どこ^{さが}を探^{さが}してもいないだろう、この

人^{ひと}以外^{いがい}の男^{おとこ}と結^{けっこん}婚^{こん}なんてしたくない.....。

早^{さつきゆう}急^{かんが}な考^{おも}えで思^つい詰^{かたおも}め、どうにもならない片^{かたおも}思^{なげ}いを嘆^{なげ}いてふろ場^ばでさ

めざめ^なと泣^ないたりしたものである。

さららももこ『もものかんづめ』集^{しゅうえいしゃ}英^{しゃ}社^{しゃ}より